

平成30年度 特別支援教育全体計画

学校教育目標

ふれあいの中で、豊かな心を持ち、たくましく生きぬく児童を育成する。

特別支援教育目標

- 生活や学習における困難を抱える児童に対してその一人ひとりの教育的ニーズを把握し、児童の持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または、克服するために、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行う。
- 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の充実を図る。

特別支援教育重点目標

- 1 多面的な視点で子どもの状況を把握するために教職員の情報交換を密にするとともに、「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を作成・活用するなど、適切な指導・支援の仕方の共通認識を深め全職員で対応する。
- 2 担任だけが抱えるのではなく、特別支援コーディネーターを中心に校内支援委員会を組織し、個に応じた適切な支援の在り方を工夫する。
- 3 インクルーシブ教育システムの理念に基づき、「合理的配慮」の充実を図る。

【特別支援学級】

児童の実態を正しく把握してその可能性を最大限に伸ばしながら自分らしく生きていくための力を育成する。

【通常学級】

特別支援を必要とする児童の実態を把握し、指導方法を工夫改善することによって、児童に必要な支援を行う。

校内支援委員会

○組織

校長・教頭・教務・特別支援教育コーディネーター（特別支援学級担任）・生活指導主任・養護教諭・該当児童担任

○運営

- ・配慮を要する児童に対しての諸問題の解決や特別支援教育の推進を図る。
- ・特別支援教育コーディネーターが企画 運営する。

【校内推進体制】

(1) 教育的ニーズを把握するために

- チェックリストを用いて実態把握を行い、生活や学習で困っている児童に気づく。
- 支援チームを組織し、関係者全員で問題把握や解決に関わる体制をとる。
- 保護者との連携を密にし、保護者の意見や思いを把握する。
- 特別支援教育コーディネーターが窓口となり、関係機関との連携を図る。

(2) 生活や学習上の困難を改善または克服するために

- 児童一人ひとりの能力・特性など実態に沿った指導・支援を行い、可能性を最大限に伸ばす。
- 児童一人ひとりの実態把握から得意なところを中心に評価し、自己肯定感を高めるようにする。

(3) 支援するために

- 特別支援教育コーディネーターが、校内研修を企画実施し、教職員の「特別支援教育」に対する理解を深める。
- 校内支援委員会を中心に教職員が連携し、共通理解を図るようにする。
- 学級担任だけで問題を抱え込まずに、支援チームを中心に関係職員で支援する。
- 特別支援教育コーディネーターが窓口となり、医療・福祉・教育など関係機関との連携を図り、支援に努める。
- 支援を要する児童の「個別的教育支援計画・指導計画」を作成し、児童理解の場で活用する。また、学期ごとに評価、見直しをし、次年度への支援の資料とする。